

# Oracle® Enterprise Performance Management System

## バックアップおよびリカバリ・ガイド



リリース 11.2

F28846-07

2023 年 10 月

ORACLE®

Copyright © 2008, 2023, Oracle and/or its affiliates.

著者: EPM Information Development Team

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software, software documentation, data (as defined in the Federal Acquisition Regulation), or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, then the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software," "commercial computer software documentation," or "limited rights data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle®, Java, MySQL and NetSuite are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Inside are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Epyc, and the AMD logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information about content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services unless otherwise set forth in an applicable agreement between you and Oracle. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services, except as set forth in an applicable agreement between you and Oracle.

# 目次

## ドキュメントのアクセシビリティについて

---

## ドキュメントのフィードバック

---

### 1 バックアップとリカバリについて

---

想定する知識	1-1
リポジトリ、データベースおよびファイル・システム	1-1
回復順序	1-3

### 2 共通バックアップ・タスク

---

バックアップの準備	2-1
データベースのバックアップ	2-1
ファイル・システムのバックアップ	2-2
OS 設定のバックアップ	2-4

### 3 Foundation Services

---

EPM Workspace と Shared Services	3-1
Calculation Manager	3-3
Smart View	3-3

### 4 Essbase コンポーネント

---

### 5 Financial Performance Management アプリケーション

---

Planning	5-1
Financial Management	5-2
Tax Provision	5-3
Financial Close Management	5-3

Tax Governance	5-3
Profitability and Cost Management	5-4

## 6 Financial Reporting

---

Financial Reporting	6-1
---------------------	-----

## 7 データ管理

---

Data Relationship Management	7-1
FDMEE	7-1

# ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

## Oracle サポートへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

# ドキュメントのフィードバック

このドキュメントに対するフィードバックを送るには、Oracle Help Center トピックのページの下部にあるフィードバック・ボタンをクリックします。  
epmdoc\_ww@oracle.com に電子メールを送信することもできます。

# 1

## バックアップとリカバリについて

次も参照:

- [想定する知識](#)
- [リポジトリ、データベースおよびファイル・システム](#)
- [回復順序](#)

### 想定する知識

このガイドは、Oracle Enterprise Performance Management System 製品をインストール、構成および管理する管理者を対象としています。次のスキルと知識を有していることを想定しています:

- セキュリティおよびサーバーの管理スキル
- オペレーティング・システム(OS)の管理スキル
- Web アプリケーション・サーバー管理スキル
- Oracle Internet Directory、Lightweight Directory Access Protocol(LDAP)、Microsoft Active Directory、Secure Sockets Layer(SSL)の使用など、認証プロバイダを含む、所属組織のセキュリティ構造に関する深い知識
- リレーショナル・データベース管理システム(RDBMS)に関する熟練した管理スキル
- ファイル・システムを含む所属組織のデータベースおよびサーバー環境に関する深い理解
- 所属組織のネットワーク環境やポート使用に関する深い理解

### リポジトリ、データベースおよびファイル・システム

多くの Oracle Enterprise Performance Management System 製品で、製品に必要なアイテムを含むリポジトリが使用されます。リポジトリのコンテンツは製品によって異なります。製品リポジトリによって、RDBMS を使用するもの、ファイル・システムを使用するもの、RDBMS とファイル・システムの両方を使用するものがあります。

#### データベースのバックアップ・タイプ

コンピューティング環境に応じて、複数のデータベース・バックアップ・タイプを使用できます。

Oracle データベースのバックアップおよびリカバリの詳細は、[Oracle Database バックアップおよびリカバリ・ユーザズ・ガイド](#)を参照してください。

## 物理バックアップ

物理バックアップは、物理データベース・ファイルのコピーです。たとえば、ローカル・ディスク・ドライブからデータベース・コンテンツを別の安全な場所にコピーすることは物理バックアップになります。

物理バックアップでは、ホット・バックアップとコールド・バックアップが可能です:

- **ホット・バックアップ** - ホット・バックアップ中、ユーザーはデータベースを変更できます。バックアップ中に行われた変更はログ・ファイルに保存され、このロギングされた変更が適用されて、データベースとバックアップ・コピーとの同期が行われます。ホット・バックアップは、完全バックアップが必要であり、コールド・バックアップのようなシステム・ダウンタイムがサービス・レベルで許可されていない場合に使用します。
- **コールド・バックアップ** - コールド・バックアップ中、ユーザーはデータベースを変更できないので、データベースとバックアップ・コピーは常に同期します。コールド・バックアップは、必要なシステム・ダウンタイムがサービス・レベルで許可されている場合にのみ使用します。

物理バックアップでは、完全バックアップと増分バックアップを実行できます:

### ノート:

定期的なコールド完全物理バックアップをお勧めします。

- **完全** - 制御ファイル、トランザクション・ファイル(**REDO** ログ)、アーカイブ・ファイル、データ・ファイルなどのデータベースの一部が含まれるデータ・コピーを作成します。このバックアップ・タイプでは、元のデータを復元できるので、アプリケーション・エラーからデータを保護し、予想外の損失を防げます。このバックアップは、データの変更頻度に応じて、1週間または2週間に1度行ってください。バックアップ中ユーザーによる変更ができない完全 **コールド**・バックアップをお勧めします。

### ノート:

データベースは、完全物理バックアップの際には必ずアーカイブ・ログ・モードである必要があります。

- **増分** - 最後の完全物理バックアップの後に行われた変更のみバックアップします。ファイルはデータベースによって異なりますが、原則的には、最後のバックアップ以降作成されたトランザクション・ログ・ファイルのみアーカイブされます。増分バックアップでは、データベースの使用中に **ホット**・バックアップを行うことも可能ですが、データベース・パフォーマンスが低下します。

バックアップに加え、クラスタリングやログ・ SHIPPING を使用してデータベース・コンテンツを保護することを検討してください。 **Oracle Enterprise Performance Management System** インストレーションおよび構成ガイドおよび RDBMS のドキュメントを参照してください。



## 論理バックアップ

論理バックアップはデータをコピーしますが、ある場所から別の場所に物理ファイルをコピーすることはしません。論理バックアップは、データベース、表またはスキーマを移動またはアーカイブしたり、データベース構造を確認したりするために使用します。

完全論理バックアップでは、オペレーティング・システムなどの使用するコンポーネントが異なる環境間で次のアイテムをコピーできます：

- アプリケーション全体
- Oracle Hyperion Shared Services レジストリおよび Oracle Essbase キューブなどのデータ・リポジトリ
- スクリプト、データ・フォーム、ルール・ファイルなどの個々のアーティファクト

論理エクスポート・バックアップでは、バイナリ・ファイルに書き込むすべての表データを取得するために必要な SQL 文が生成されます。論理エクスポート・バックアップには、物理ディスクの場所など、データベース・インスタンス関連情報が含まれないので、別のデータベース・マシンに同じデータを復元できます。物理バックアップが失敗したり、データベース・マシンに障害が発生した場合に備えて、定期的な論理エクスポート・バックアップ(少なくとも 1 週間に 1 度)をお勧めします。

## ライフサイクル管理によるバックアップ

Oracle Hyperion Foundation Services とともに提供される Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ライフサイクル管理を使用して、論理バックアップを実行できます。Oracle Enterprise Performance Management System ライフサイクル管理ガイドを参照してください。

## ファイル・システムのバックアップ・タイプ

ファイル・システムの完全バックアップには、システム・ディレクトリ全体が含まれます。たとえば、EPM Oracle ホーム・ディレクトリのバックアップでは、インストール済の EPM System 製品がすべてバックアップされます。次のタイプと頻度のファイル・システム・バックアップを実行することもできます：

- インストール後 - 製品を再構成する場合に作成または変更されたディレクトリ
- 日次増分 - 前日以降の新規の、または変更されたディレクトリとファイル(リポジトリ・コンテンツとログ・ファイルを含む)
- 週次完全 - 日次増分バックアップを実行するディレクトリ内のすべてのファイル
- 必要に応じて - 不定期に変更されるデータ

# 回復順序

Oracle Hyperion Shared Services、および Shared Services 用にバックアップしたコンポーネントを復元してから、他の製品を復元します。

▲ **注意:**

EPM System コンポーネントは、Shared Services リポジトリとの間で情報の読取りおよび書込みを頻繁に行うため、Oracle Enterprise Performance Management System コンポーネントのバックアップと復元操作を同期させることが重要です。たとえば、バックアップから Shared Services を復元する場合は、同時に作成したバックアップから登録済 EPM System コンポーネントを復元する必要もあります。

## 2

# 共通バックアップ・タスク

次も参照:

- [バックアップの準備](#)
- [データベースのバックアップ](#)
- [ファイル・システムのバックアップ](#)
- [OS 設定のバックアップ](#)

## バックアップの準備

コールド・バックアップを開始する前に次のタスクを完了しておく必要があります:

- 製品を停止し、すべてのユーザーがログオフしていることを確認します。
- すべての関連サービスを停止します。*Oracle Enterprise Performance Management System* インストールガイドおよび構成ガイドの EPM System 製品の開始と停止を参照してください。
- Oracle Hyperion Foundation Services データベースをバックアップします。

### ノート:

Oracle Enterprise Performance Management System 製品に対してホット・バックアップを実行することもできますが、いくつかの制限があります。これらについてはこのガイドの後半で説明します。これらのバックアップは同時に実行する必要があります。

## データベースのバックアップ

次のデータベースをバックアップします:

- Oracle Enterprise Performance Management System のアプリケーション・データを格納するデータベース
- Oracle Hyperion Shared Services リポジトリ

Shared Services リポジトリには、ほとんどの製品の構成設定を格納する Oracle Hyperion Shared Services レジストリが含まれます。また、ネイティブ・ディレクトリ、プロビジョニング情報および Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace のプリファレンスも含まれます。インストールおよび構成の直後に完全な物理バックアップを行うことをお勧めします。

個々の EPM System コンポーネントをバックアップする手順については、このガイドのコンポーネント固有の項を参照してください。Oracle Hyperion Foundation Services のバックアップの手順は、[EPM Workspace](#) と [Shared Services](#) を参照してください。

製品アプリケーションで使用するデータの保管または抽出に使用するデータベースも、ベンダーのドキュメントに従ってバックアップします。次の **EPM System** コンポーネントについては、データベース・コンテンツの定期的なバックアップをお勧めします:

- Foundation Services
- Oracle Hyperion Calculation Manager
- Oracle Data Relationship Management
- Oracle Hyperion Financial Management
- Oracle Hyperion Financial Close Management
- Oracle Hyperion Planning
- Oracle Hyperion Profitability and Cost Management
- Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Enterprise Edition

次の製品はリポジトリ・データベースを使用しません:

- Oracle Smart View for Office
- Oracle Hyperion Provider Services

## ファイル・システムのバックアップ

次の Oracle Enterprise Performance Management System 製品には、ファイル・システムの定期的なバックアップをお勧めします:

- Oracle Hyperion Foundation Services
- Oracle Data Relationship Management
- Oracle Hyperion Financial Management
- Oracle Hyperion Planning
- Oracle Hyperion Profitability and Cost Management

次のアイテムを毎日バックアップすることをお勧めします:

- `EPM_ORACLE_INSTANCE/config` (Oracle Hyperion Shared Services レジストリに書き込まれている構成と再構成の設定をバックアップ)
- `MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/domain name` (EPM System WebLogic ドメイン・ディレクトリ)

### ノート:

このアイテムは、**Web** アプリケーション・サーバーを必要とする製品に対してのみ適用されます。

- `EPM_ORACLE_INSTANCE/import_export` (Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ライフサイクル管理のコンテンツがある場所)
- 製品アプリケーションとアプリケーション・データ
- Windows 環境:

- Windows レジストリ: HKEY\_LOCAL\_MACHINE とそのすべてのサブキー

 ノート:

いくつかの EPM System コンポーネントについては、固有のサブキーのみをバックアップする必要があります。これらについては、各コンポーネントのバックアップ手順を参照してください。

Windows レジストリをバックアップしておく、Windows を再インストールしたときに、システム・リカバリが使用可能になります。OS 設定のバックアップを参照してください。

次の製品には適用できません:

- \* Oracle Smart View for Office
- \* Oracle Hyperion Provider Services

OS 設定のバックアップを参照してください。

- %CommonProgramFiles%/InstallShield/Universal
- %USERPROFILE%/oracle.instance (製品の追加、除去、再インストールおよびアップグレードを可能にします)
- 次の環境:
  - .oracle.instances (製品の追加、除去、再インストールおよびアップグレードを可能にします)
  - \$HOME/InstallShield/Universal
  - \$HOME/oraInventory
  - ユーザー・プロファイルなどのファイル、カーネル調整パラメータ、編集した .init ファイル
  - /etc (システムレベル設定)
  - ユーザー・ホーム・ディレクトリ (非表示のファイルとサブディレクトリ内のユーザーレベル設定)
  - /usr、/lib、/platform (静的システム情報)
  - /var (システム・ログとスプール)

ユーザー・ホーム・ディレクトリと、アプリケーション固有のディレクトリまたはファイル・システムをバックアップする必要があります。復元手順を定期的にテストすることをお勧めします。

新しい製品をインストールする場合やパッチを適用する場合は、(インストールしたすべての製品をバックアップするために)EPM Oracle ホーム・ディレクトリをバックアップします。

ディレクトリとファイルは、別の場所にコピーしてバックアップします。OS 付属のユーティリティ (Windows 2003 バックアップ・ユーティリティなど) や、サードパーティのバックアップ・ユーティリティを使用することもできます。障害時には、これらのコピーを元の場所に戻すことにより復元を行います。

## OS 設定のバックアップ

Windows のレジストリ設定と、Windows および Linux 環境の特定のシステム変数をバックアップする必要があります。

### Windows レジストリ設定のバックアップ

Windows レジストリ(HKEY\_LOCAL\_MACHINE とそのサブキー)をバックアップしておくと、Windows の再インストール時にシステム・リカバリが使用可能になります。

#### ノート:

いくつかの Oracle Enterprise Performance Management System コンポーネントについては、固有のサブキーのみをバックアップする必要があります。これらについては、各コンポーネントのバックアップ手順を参照してください。

Windows の regedit コマンドを使用してレジストリ・ファイルを作成することにより、システムと製品コンポーネントをバックアップできます。障害が発生したら、レジストリ・ファイルを実行して、コンポーネントを復元できます。

#### ノート:

次の手順は、Oracle Smart View for Office または Oracle Hyperion Provider Services には適用されません。

regedit でコンポーネントをバックアップするには:

1. 「スタート」、「ファイル名を指定して実行」の順に選択します。
2. regedit と入力し、「OK」をクリックします。
3. 左側のパネルでコンポーネントのサブキーを右クリックし、「エクスポート」を選択します。
4. レジストリ・ファイルの保存先を選択し、.reg 拡張子付きのファイル名を入力し、「保存」をクリックします。

### 例 2-1 システム変数のバックアップ

HYPERION\_HOME および EPM\_ORACLE\_HOME システム変数をバックアップすることをお勧めします。

#### ノート:

この推奨事項は Smart View には適用されません。

# 3

## Foundation Services

### 次も参照:

- [EPM Workspace と Shared Services](#)
- [Calculation Manager](#)
- [Smart View](#)

## EPM Workspace と Shared Services

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace と Oracle Hyperion Shared Services で、ファイル・システムおよびデータベースが共有されます。

### ノート:

Shared Services のバックアップは、プロビジョニング・データを保持するため、製品のバックアップと同期する必要があります。

### ファイル・システムのバックアップ

EPM Workspace と Shared Services のファイル・システムをバックアップするには:

1. EPM Workspace をインストールまたは再構成した後に、ストレージ・デバイスまたは別のネットワークの場所に次のフォルダをコピーします:
  - `EPM_ORACLE_INSTANCE`
  - `MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/ domain name`

### ノート:

これは、マシンにインストールおよび構成された Oracle Enterprise Performance Management System の全コンポーネントを対象とした 1 回だけのバックアップです。

2. `EPM_ORACLE_INSTANCE/config` の次のサブフォルダについて、週次完全バックアップまたは日次増分バックアップを実行します:
  - `FoundationServices`
  - `Foundation`

 ノート:

`EPM_ORACLE_INSTANCE/config/foundation` の 11.1.2.0 サブフォルダには、回復に必要な `.reg.properties` が含まれています。

3. **オプション:** 履歴情報のみを含む `MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/domain name/servers/managed server name/logs` の月次バックアップまたは週次バックアップを実行します。

## EPM Workspace および Shared Services の復元

障害後に EPM Workspace と Shared Services を復元するには:

1. Oracle Hyperion Shared Services レジストリを含む、バックアップしたすべてのコンポーネントを回復します。  
コピーされたディレクトリとファイルを元の場所に配置します。
2. すべての製品と関連サービスを再起動します。Oracle Enterprise Performance Management System インストールガイドおよび構成ガイドの EPM System 製品の開始と停止を参照してください。

## データベースのバックアップ

EPM Workspace と Shared Services のデータベースをバックアップするには:

1. データベース・システム表に移動します。
2. Oracle RDBMS を使用する場合は Shared Services および EPM Workspace スキーマをバックアップし、それ以外の場合は SQL Server データベースをバックアップします。

## 別のサーバーへのデータベースの復元

あるサーバーのデータベースをバックアップし、(たとえば、1 つ目のデータベース・サーバーが保守中であるために)2 つ目のサーバーに復元する場合、WebLogic 管理コンソールを使用してデータ・ソースと `reg.properties` ファイルを更新する必要があります:

別のサーバーへデータベースを復元するには:

1. データ・ソースを更新します:
  - a. WebLogic 管理コンソールから、「サービス」、「dataSource」、 「EPMSysRegistry」の順に選択します。
  - b. 「接続プール」タブで、2 つ目のサーバーのユーザー名、パスワードおよび JDBC URL を指定します。
  - c. 保存して変更をアクティブ化をクリックします。
2. テキスト・エディタで `reg.properties` を開き、ユーザー名、パスワードおよび JDBC サーバー URL を更新します。

`reg.properties` ファイルは、`EPM_ORACLE_INSTANCE/config/foundation/11.1.2.0` にあります。



3. Shared Services を開始します。

## Calculation Manager

障害後の回復を可能にするために必要なのは、RDBMS のドキュメントの説明に従って、Oracle Hyperion Calculation Manager で使用するデータベースをバックアップすることのみです。また、万一の備えとして、次のことができます:

- `EPM_ORACLE_HOME/products/Foundation/CALC` 内の製品コンポーネントをバックアップします。
- `MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/domain name/servers/managed server name/logs` の週次完全バックアップまたは日次増分バックアップを実行します。

## Smart View

障害後に Oracle Smart View for Office の回復を使用可能にするには、Smart View のデータを含む Microsoft Office ドキュメントを別の場所にコピーします。

次のファイル・タイプが含まれます:

- XLS と XLSX (Excel)
- DOC と DOCX (Word)
- PPT と PPTX (PowerPoint)

障害から回復するには、バックアップされた Microsoft Office ドキュメントを元の場所に戻します。

# 4

## Essbase コンポーネント

Essbase インスタンスのライフサイクルを管理する柔軟性を完全に確保し、障害時リカバリを提供するためには、アプリケーションとインスタンスの両方のレベルで **Essbase** バックアップおよび復元計画が必要です。詳細は、[Essbase のバックアップおよび復元](#)を参照してください。

### ノート:

関連サーバー内で構成されたファイル `ESS_ES_HOME/bin/essbase.properties` は、Java API (JAPI)を使用して EPM 製品用にバックアップする必要があります。

# 5

## Financial Performance Management アプリケーション

### 次も参照:

- [Planning](#)
- [Financial Management](#)
- [Tax Provision](#)
- [Financial Close Management](#)
- [Tax Governance](#)
- [Profitability and Cost Management](#)

## Planning

障害からの Oracle Hyperion Planning の回復を使用可能にするには:

1. [共通バックアップ・タスク](#)の説明に従って、関連コンポーネントをバックアップします。

### ノート:

Planning システム・データベースおよび個々のアプリケーション・データベースのすべてを必ずバックアップします。

アプリケーションおよび関連アプリケーション・データベースのバックアップには次のアイテムが含まれている必要があります:

- Oracle Essbase に含まれるアプリケーション
- Planning のデータベース・プロバイダ
- 必要な Planning コンポーネント

### ヒント:

Windows レジストリ全体をバックアップするのではなく、Planning の、HKLM/Software/Oracle\* nodes キーと HKLM/System/CurrentControlSet/Services/Oracle\*キーのみをバックアップできます。

2. アプリケーションの Essbase アウトライン・ファイルをバックアップします。
3. Essbase データの完全エクスポートをバックアップします。
4. Essbase に関連付けられている計算スクリプトと代替変数をバックアップします。

5. **Planning** 共有ライブラリが含まれるファイル・システム・フォルダをバックアップします:
  - 32 ビット: `EPM_ORACLE_HOME/products/Planning/lib`
  - 64 ビット: `EPM_ORACLE_HOME/products/Planning/lib64`
6. **Linux: Planning** に関連付けられている起動ファイルなど、カスタム・スクリプトをバックアップします。
7. `EPM_ORACLE_HOME/common/planning/11.1.2.0/lib` 内の共通コンポーネントをバックアップします。
8. `EPM_ORACLE_HOME/products/Planning` ディレクトリのバックアップに次のファイルが含まれていることを確認し、含まれていない場合は手動でこれらをバックアップします:
  - `log4j.properties`
  - `essbase.properties`

障害後に回復するには:

1. すべての製品と関連サービスを停止します。**Oracle Enterprise Performance Management System** インストールおよび構成ガイドを参照してください。
2. バックアップされたファイルとディレクトリを元の場所に配置します。
3. **Planning** データベースを復元します。
4. すべてのサーバーとサービスを再起動します。

**Essbase** コンポーネントも参照してください。

## Financial Management

すべてのアプリケーション・サーバーと **Web** サーバー上で次の手順を使用して、**Oracle Hyperion Financial Management** をバックアップします。

**Financial Management** の回復を使用可能にするには:

1. 1 サイクルに 1 回、完全データベース・バックアップを実行します:
  - a. **Financial Management Web** サービスおよび **Financial Management Java** サービスを停止します。
    - Oracle Hyperion Financial Management - Java サーバー (epmsystem1)
    - Oracle Hyperion HFM サーバー - Java Web アプリケーション (epmsystem1)
  - b. 関連プロセス `xfmdatadatasource.exe` を停止します。
2. **Oracle Hyperion Shared Services** レジストリをバックアップします。
3. カスタマイズされたスタイル・シートをバックアップします。

 ノート:

Oracle Hyperion Shared Services をバックアップする必要もあります。

アプリケーション・サーバーまたは Web サーバーの障害から回復するには:

1. 障害が発生したアプリケーション・サーバーまたは Web サーバー上で **Financial Management** を再インストールして構成します。
2. 新しく構成したサーバー上で **Financial Management** のすべてのプロセスおよびサービスを停止します。
3. バックアップされたファイルを元の場所に復元します。
4. サービスを再起動します。

データベース・サーバーの障害から回復するには:

1. すべてのアプリケーション・サーバーと Web サーバー上で **Financial Management** のすべてのプロセスおよびサービスを停止します。
2. 前回の完全バックアップからデータベースを復元し、必要に応じてトランザクション・ログを適用します。
3. データベースを再起動します。
4. アプリケーション・サーバーと Web サーバーを再起動します。

## Tax Provision

Oracle Hyperion Tax Provision のリカバリを有効にするには、**Financial Management** で説明する手順に従います。

## Financial Close Management

Oracle Hyperion Financial Close Management データのリカバリを有効にするには、データベースをバックアップします。ホット・バックアップまたはコールド・バックアップを実行できます。[データベースのバックアップ・タイプ](#)および **RDBMS** のドキュメントを参照してください。

テスト環境を作成するために、本番環境のクローンを作成する方法の詳細は、**My Oracle Support** のナレッジ記事 **1903665.1** (<https://support.oracle.com/rs?type=doc&id=1903665.1>) で、単一ノード環境用の手順を参照してください。

## Tax Governance

Oracle Hyperion Tax Governance のリカバリを有効にするには、**Financial Close Management** で説明する手順に従います。

## Profitability and Cost Management

障害からの Oracle Hyperion Profitability and Cost Management の回復を使用可能にするには:

1. [共通バックアップ・タスク](#)の説明に従って、関連コンポーネントをバックアップします。
2. Profitability and Cost Management のインポート・ステージング領域と運用データ・ストアをバックアップします。

リレーショナル・データベースのバックアップ・ツールを使用します。これにはスクリプト作成やスケジューラ・スクリプトの使用が含まれることがあります。

3. Oracle Essbase アプリケーション、データベース、計算スクリプトおよびデータ・フィルタをバックアップします。

[Essbase コンポーネント](#)および *Oracle Essbase データベース管理者ガイド*を参照してください。

障害から回復するには、バックアップされたコンポーネントを元の場所に復元し、データベースを復元します。

# 6

## Financial Reporting

### Financial Reporting

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ライフサイクル管理を使用して、Oracle Hyperion Financial Reporting のドキュメント・リポジトリをバックアップします。

ドキュメント・リポジトリをバックアップするには:

1. Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace にログインします。
2. 「ナビゲート」メニューから、「管理」、「Shared Services Console」の順に選択します。
3. 「アプリケーション管理」で、「アプリケーション・グループ」ノードを展開して、「デフォルト・アプリケーション・グループ」を展開します。
4. 「ドキュメント・リポジトリ」を右クリックして、「エクスプローラ」をクリックします。
5. バックアップするリポジトリ・オブジェクトを選択して、「エクスポート」をクリックします。
6. 「ファイル・システム・フォルダ」にわかりやすい名前を入力して、「エクスポート」をクリックします。
7. 「アプリケーション管理」で、「ファイル・システム」ノードを展開して、エクスポートしたファイルを右クリックして、「ダウンロード」をクリックします。

共通バックアップ・タスクの説明に従って、エクスポートされたファイルを、他のアーティファクトとともにバックアップします。

`EPM_ORACLE_INSTANCE\bin` の `ziplogs.bat` ユーティリティを使用してログ・ファイルをダウンロードできます。

# 7

## データ管理

次も参照:

- [Data Relationship Management](#)
- [FDMEE](#)

### Data Relationship Management

Oracle Data Relationship Management は、ユーザーが作成するアプリケーションごとに個別のデータベースとスキーマを使用します。

障害からの Data Relationship Management の回復を使用可能にするには:

1. [共通バックアップ・タスク](#)の説明に従って、関連コンポーネントとアプリケーション・データベースをバックアップします。
2. `EPM_ORACLE_HOME/products/DataRelationshipManagement/server/config`にある次のファイルをストレージ・デバイスに定期的にバックアップします:  
  
`drm-config.xml` - そのマシンでホストされているすべての **Data Relationship Management** アプリケーションの接続情報
3. `Web.Config` を編集する場合は常に `EPM_ORACLE_HOME/products/DataRelationshipManagement/client/drm-client-application/Web.Config` をバックアップします。
4. 自動プロセスの実行に使用される **Data Relationship Management** バッチ・クライアントのスクリプトをバックアップします。これらのファイルの場所は、バッチ・クライアント・プログラムを実行するコンピュータによって異なります。
5. **Data Relationship Management** 移行ユーティリティによって (アーカイブのために)作成された **XML** ファイルをバックアップします。これらのファイルの場所は、移行ユーティリティを実行するコンピュータによって異なります。

障害後に回復するには:

1. コピーされたデータベースおよび構成ファイルを元の場所に復元します。
2. データベースのパスワードを構成ファイルに再入力します。

### FDMEE

クラッシュ後に **Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Enterprise Edition** のリカバリを有効にするには、マッピング表およびデータ・ステージング表を格納するデータベース・スキーマを定期的にバックアップします。

障害後に回復するには、ディレクトリを元の場所に復元し、データベース・ベンダーのドキュメントを参照して、データベースを復元します。